

# ペンタサ<sup>®</sup> 経口製剤（錠剤、顆粒） を服用される患者さんへ

監修 東京慈恵会医科大学 消化器・肝臓内科 主任教授 猿田 雅之 先生

このお薬は、次の方は服用できませんので、必ず医師または薬剤師に伝えてください。

- 本剤や同様の成分のお薬で、かゆみ、発疹などのアレルギー症状を起こしたことがある
- 腎臓や肝臓に重い障害がある

## ペンタサ<sup>®</sup>とは

潰瘍性大腸炎、クローン病を治療するお薬です。

このお薬は、大腸の炎症を抑え、腹痛、血便などを改善します。

ペンタサ<sup>®</sup>顆粒94%



ペンタサ<sup>®</sup>錠250mg



ペンタサ<sup>®</sup>錠500mg



## ペンタサ<sup>®</sup>を服用するにあたって

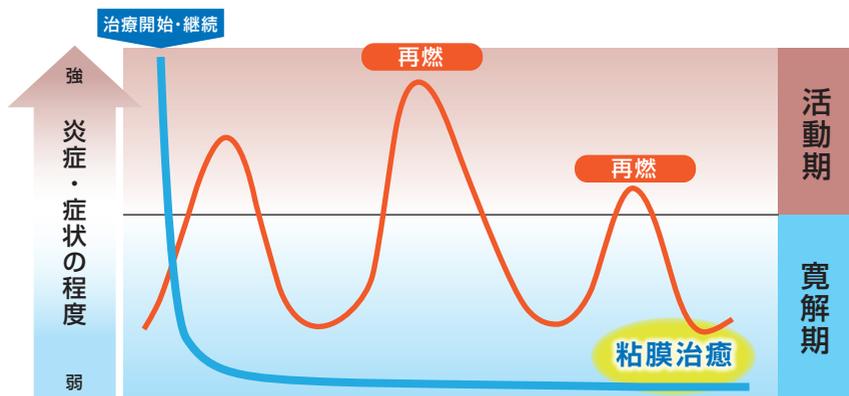
- お薬の量や回数は、医師または薬剤師の指示通りに服用してください。
- 水またはぬるま湯で、かまずに服用してください。
- 次の症状がある場合は、医師または薬剤師に相談してください。  
発熱、呼吸困難、から咳、胸部痛、呼吸困難、尿量減少、貧血傾向、出血傾向、全身けん怠感、食欲がない、皮膚や結膜などが黄色くなる、激しい上腹部または腰背部の痛み、吐き気・嘔吐など
- このお薬は室温で保管してください。わずかにうすい茶色になることがあります。効き目に変わりありません。
- 便中に白いものが見られることがありますが、問題ありません。

# きちんとお薬を使って炎症を抑え、 自覚症状のない状態を維持することが大切です

潰瘍性大腸炎、クローン病は慢性の疾患で、今のところ、完治させることは難しいと考えられています。

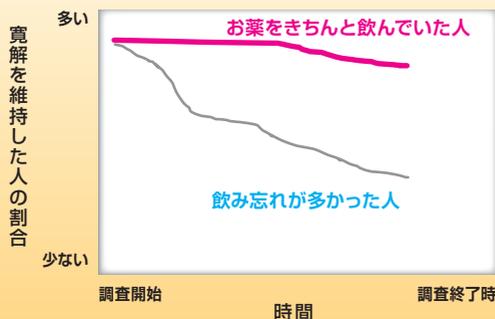
また、潰瘍性大腸炎、クローン病には、腹痛・下痢・血便などの自覚症状があらわれている**活動期**と自覚症状がみられない**寛解期（かんかいき）**があります。症状は再びあわれやすく（**再燃**）、**再燃と寛解をくり返す**ことがあります。

そのため、治療の目的は、お薬をきちんと使って、**活動期の症状を改善**するとともに、自覚症状がみられない**寛解（かんかい）を維持**することです。



Solberg IC, et al: Scand J Gastroenterol. 2009;44(4):431-440などを参考にして作図

## 自覚症状がみられなくなっても、服用を続けましょう



再燃を防ぐためには、自覚症状がみられなくなっても（寛解期も）お薬を毎日飲み続けることが大切です。

「お薬をきちんと飲んでいたら」は、「飲み忘れが多かった人」に比べて、寛解を維持した人の割合が多いといわれています。

キョーリン製薬

作成年月：2021.9  
ICPS0067